

ALIC/USMEF 食肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と食肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算26回目となります。

1 日 時：平成23年6月21日(火) 10時～12時

2 場 所：ALIC会議室

3 参加者

ALIC 木下理事長、清家総括理事、岩波調査情報部長、東郷畜産需給部長、新川調査情報部首席農畜産業調査員ほか

USMEF フィリップ・M・セング 会長  
ジョエル・ハガード 主席副会長  
山庄司岳道 シニアマーケティング・ディレクター  
原田 晋 シニア・ディレクター

4 会議内容

木下理事長とセング会長の挨拶の後、ALICから日本の食肉需給について、USMEFから米国の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<ALICからの食肉需給についての説明概要>

日本の直近の牛肉及び豚肉の消費動向、今後の生産予測、東日本大震災が畜産に及ぼす影響、昨年の口蹄疫が食肉需給に与えた影響等について説明。

<USMEFからの食肉需給についての説明概要>

## 牛肉

- ・ 肉牛価格が前年を上回って推移する中、トウモロコシ価格もエタノールの需要増などを反映して記録的な水準。このため、2011年における肥育業者及びパッカーの収益性は、2009年及び2010年の水準を下回り、トウモロコシ価格の高騰により近年では最も収益が悪化した2008年と同様の傾向で推移。
- ・ 牛肉の供給は、テキサス、オクラホマ州などにおける干ばつにより、繁殖雌牛のとう汰が進んでいることなどから一時的に増加しているものの、趨勢は減少傾向。

## 豚肉

- ・ 2011年の豚肉の生産量は、飼養頭数の増加を受け前年を1%上回る見込み。2012年も同程度増加する予想。
- ・ ただし、養豚経営の収益性も、牛と同様の傾向を示しており、トウモロコシの価格次第でこの見込みは修正される可能性。

## 食肉の国内消費と輸出

- ・ 1人当たり食肉消費量は、2009年以降、牛肉及び豚肉が減少する一方、家きん肉は増加。これは、家きん肉が生産性の向上により安価なたん白源として供給されるようになった影響。
- ・ 輸出は、豚肉について2010年が前年比3%増の191万トン、2011年も同6～10%増の200万トン超が見込まれるとともに、牛肉についても、中国、台湾、日本をはじめとするアジア向けが今年に入って前年同期を53%上回る伸びを示すなど好調に推移。為替が当面ドル安で推移すると見込まれることもあり、食肉業界は、積極的な輸出の展開を通じて成長する見通し。

お問い合わせ先  
調査情報部  
瀬島、前田（絵）  
電話 03-3583-9802、4398